

報告 1

平成30年度2回目の魚拓教室と安全講習会 (H30-10/5)

南港魚釣り園護岸で、平成30年度2回目の魚拓教室と安全講習会を開催しました。

魚拓教室は大変盛況で、子供たちが自分で釣ったイワシやコサバなどを持って、魚拓作成の順番待ち。

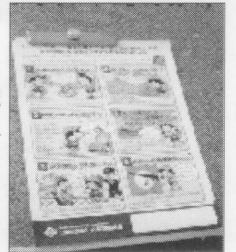
待ち時間を利用し図鑑で釣れた魚の名前や特徴、生息地域や漁獲量などを子供たちと調べたり釣りの話題で楽しく時間つぶし、魚拓作成の順番が来ると、インストラクターの魚拓



作成に興味津々。魚拓が採れると、魚の名前・釣り人名・釣り場所などを筆で子供たちが記入し魚拓の出来上がり、保護者の方も子供との記念になると大喜び。

また、併せて実施した安全指導では保護者に待ち時間を利用し、安全に釣りを楽しんでもらえるよう、安全対策リーフレット見ていただきながら安全講習会。

ライフジャケットの重要性や素手で触ると危険な魚、海での緊急連絡番号の「118」等を説明させていただきました。(報告 辻)



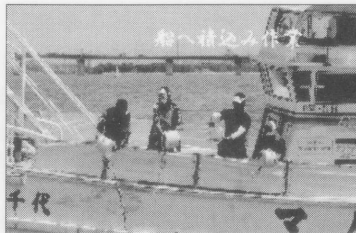
報告 2

第37回大阪湾稚魚放流事業に参加 (H30-8/30)

今年で37回目になりました、日本釣振興会大阪府支部主催の稚魚放流に協力。台風接近により予定日が一週間延期されたので、インストラクターの参加者は当初5名予定していましたが3名に、稚魚放流に毎年参加されていたボーイスカウトも夏休みが終了したので参加はなくなり残念でした。

出島漁港に集合し、昨年と同様クルージングを楽しみながら、開催場所の常吉大橋下に到着しました。

トラックで運び込まれた「チヌ」18,000尾の稚魚を、参加ボランティアがバケツリレーで協力船に運び込み、



放流場所で、放流された稚魚は元気よく水面を泳ぎまわり、海底へと姿が見えなくなりました。

なお「キジハタ」3400尾は4月17日、「マコガレイ」5000尾を6月12日に放流を実施したとのことです。

(報告 事務局 物部)

報告 3

日本ボーイスカウト大阪連盟なみはや地区釣り章講習考査会 (H30-9/23)

※※※※平成30年度の釣り章合格者は27名※※※※

ボーイスカウト達が自分の話をどこまで理解してくれているか、とても緊張しました。座学で話している時は、うなずいてくれたりしていましたが、不安が大きくなっています。昨年も講師をしたのですが、理解度テストの回答正解率が余り良くなく、今年は話し方を変えて行ったため持ち時間を少しオーバーしてしまいました。

インストラクターになって、人前で話すことの難しさ、理解してくれるためにどのように話せば良いのかを学ぶことになるとは思っていませんでしたが、とても新しい経験を毎年しています。私達インストラクターも勉強が必要であり、忘れていた釣りの学習をすることで、釣りに対する姿勢も変化し新しいことに挑戦しなくてはいけないことを実感しました。

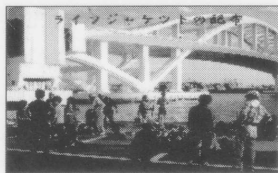


実釣では、毎年のことながら魚に触ることが初めてで、戸惑っているボーイスカウトもいましたが、徐々にタオルを使用してつかめるようになりました。釣った魚を自宅へ持ち帰りフライや天婦羅にして食べることで命の大切さを理解してもらいました。閉会式では「本日体験した釣りの楽しさを忘れないで、これからもボーイスカウトとして前進してください。釣りは頭の中で覚えるものではなく体感する学習で、誰でも簡単に体験できるスポーツです。生きた魚を初めて触る人もいましたが、これから生き物との触れ合いを多くして命の大切さを実感してください」と講評し無事終了しました。

(報告 東田)

平成30年度の「寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室」は、台風21号の影響により昨年開催した南港魚釣り園護岸が大被害を受けて休園となっており、開催場所3か所を調査の結果、一番近郊の舞洲緑地公園で開催となりました。

当日は薄曇りで釣りに適した天気でしたが、昼前には暑くなり不調を訴える子供もおり、スタッフやインストラクターも対応に大変でした。到着後、安全な釣りをするためのマナールールを勉強。その後、



各自ライフジャケットを着用。慣れている子供も多くスムーズに着用していました。11時過ぎから釣り開始、一投目からアジが2匹も釣れた子供もいましたが、数匹釣れた後は、カタクチイワシの出番。皆カタクチイワシの鱗を手や竿にいっぱい付けて頑張りました。帰る前になると20数匹のサバが掛かりだし、釣果としては十数匹のアジが全員に釣れ、大喜びの一日でした。閉会式では保護者からどうして食べたら良いのかなどの質問がインストラクターにあり、料理方法を説明する閉会式となりました。また、参加者よりお礼の言葉もあり、無事に怪我等もなく終了したことが何よりでした。

(報告 川嶋)



親子ふれあい釣り教室に参加して

(感想文 拓斗のお姉さん)



9月22日にわんぱくスクールの釣り教室に参加しました。まず注意事項や魚釣りについての説明をインストラクターの方から聞いた後、竿の準備を始めました。小学生の皆には少し難しい部分もありましたが、インストラクターさんの丁寧な指導のお陰で皆すぐに竿の用意ができました。

私は仕掛けを海に下ろしても中々魚を釣る事が出来なかったのですが、1分もしないうちに小さなカタクチイワシを数匹釣れている子もいて、とても驚きました。数時間経つとみんなも要領が分かり始め、イワシだけでなくアジやサバも釣れ始めました。私はサバを4匹、アジを3匹釣ったのですが、特にサバは引きが強く釣り上げるまでに腕がとても疲れました。釣り場では他の釣り客も大勢いて、コミュニケーションが取れたので、より一層釣りが楽しくなりました。6~7時間も釣ったのでかなり多くの魚が手に入り、一緒に行った弟や家族の分を合わせると食べきれないほど大漁でした。帰宅して釣った魚をフライや南蛮漬、煮物など様々な調理をして無駄なく家族みんなで美味しく食べました。今回の魚釣り教室は、魚釣りは釣ることの楽しさだけでなく、食べ物として命をいただく事への感謝や有り難みを考える良い機会になりました。この経験を生かして食べ物をより大切にしていきたいと思いました。



※※※※※ 全員笑顔で閉会式 ※※※※※

今年も淡輪ヨットハーバーで、バリアフリー釣り大会を開催。主催のNPO法人「み・らいず」からの協力依頼により、参加者に安全に魚釣りを楽しんでもいただくため、インストラクター10名が参加しました。

保護者5名を含め、当日の釣り教室は参加者が29名となり、その他、ボランティア、ヘルパーやインストラクター等を含めると69名で昨年度を大きく上回る人数となりました。釣り教室では参加者1名にヘルパーとスタッフ各1名、インストラクターが参加者2名~3名を担当する体制としました。また、安全に釣りをするため、開会式

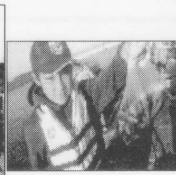
の後ライフジャケットを着用していただき、教材の「すきすきフィッシング」で、危険な行為や直接触ってはいけない魚、釣りの基本等を説明。釣り方はサビキ釣りで、今年も開始と同時に「アジ」「サバ」「イワシ」等入れ食い状態が続く、釣りの楽しさを体感していただき笑顔の絶え間がない1日となりました。閉会式の講評で無事に終了したことの喜びを伝え、この日の思い出がいつまでも心に残るようにと話しました。(報告 辻)



昨年は南海電車の台風被害で実施出来なかったが、今年は10月21日(日)に淡輪町立公民館で、リーダーを含め27名が受講し、座学と淡輪漁港での実釣を計画通り実施出来ました。座学では、9時40分から「釣りの基本・安全確保・ルールやマナー・つりの楽しさを知る」から始まり、最後は「釣りの仕掛け実習」で終わりました。今年も仕掛け実習では一生懸命取り組んでいましたがなかなか難しいようでした。座学が終わると昼食の休憩ですが「釣り章の試験」が13時から開始されるので、仲間たちと出題について話し合ったり、教科書を確認しているボーイスカウトもいました。60点以上をとらないと淡輪港の実釣に進むことが出来ません。

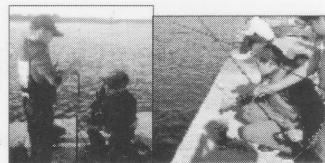
試験では、再確認して提出するボーイスカウトもいましたが、全員合格し実釣へ進み何よりでした。

漁港に到着すると班別になり、ライフジャケット着用の相互確認。学習どおりの安全な釣りが出来る

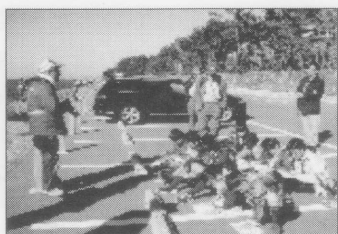


ようにインストラクターから危険な魚などを再度説明し、実釣が開始されました。20分前後のマイワシが回遊していたので、入れ食い状態が初めから最後まで続き、持ち帰り用の氷等が足らなくなってきたので、責任者と相談し、予定時間を早めて終了することにしました。最初はマイワシに触る事の出来なかったボーイスカウト達に、生き物の命の大切さを説明し、素手で触り針から外すこと、また今晚帰って料理し食べることを約束してもらいました。ボーイスカウト達との対話から、海や魚の自然環境保護をどの様に感じているかなどを知ることが出来、楽しい一日を過ごせたことにインストラクターの喜びを感じました。閉会式では「いっぱい魚の命をいただいて有難いことです。皆さんも魚に感謝してください。また、ボーイスカウトとして自然との対話が魚をとおしてより進められるよう頑張ってください。これからも釣りを楽しんでください。」と講評し終了しました。

(報告 西谷)



寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室に参加されていた保護者から、枚方のカブスカウトで釣り大会開催を予定したが「釣り竿やリール等の準備」や「指導者」がいないので開催出来なかった。責任者に話すので協力してほしいとの要請がありました。後日、枚方カブスカウト第三団の隊長から電話があり打合せを実施しました。JOFI大阪で実施している事業等を話し、計画書で協力出来る部分の説明と実際に必要な準備物などをお伝えしました。また、参加者は小学生の低学年が対象で、特に開催場所は電車やバスを乗り継いで現地へ行くので、近郊で願いたいとの要望により、大阪湾北港舞洲緑地公園で開催することになりました。柵が無いことと救命ボックスが台風被害で使用できないので、浮き輪とロープを準備してくださいとのお願いをして、開催することとしました。開催日は、13名の子供達とスタッフ9名(保護者を含む)の参加者で、天候も朝方は少し寒かったが釣り日和、現地には多くの釣り人が来ていました。しかし、釣り人には釣れる気配はなく、協力インストラク



ター全員心配になり事前調査のため釣りを始めましたが釣れませんでした。カブスカウトの子供達は30分も早く現地に到着したとの連絡があり、急いでバス停留所まで迎えに行きました。早速「すきすきフィッシング」で釣りの安全やマナーを説明しライフジャケットを着用。釣りを始めましたが、意外なことに、すぐにイワシが釣れ喜びの声が上がりました。イワシの次はサヨリ、チャリコそして最後にはサバまで釣れて、皆が楽しんでいる間に2時間が経過してしまいました。また、途中で保護者2名の飛び入りがあり、子供と釣りを始められたりしたので盛り上がり、釣れるたびに歓声が上がりました。12時近くだったので、休憩と昼食の時間とし



ましたが、食べるとすぐに釣り竿を握っているカブスカウトと保護者もおられました。

しかし、食事を済ませて少しすると、天候の状況が悪くなり白波も多くなってきたので、釣り場を皆で清掃して13時30分頃に終了としました。

(報告 室井)



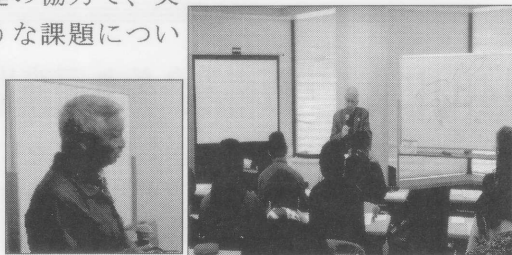
報告 8

平成30年度公認釣りインストラクター講習会と試験(H30-12/15~16)

大阪会場ヒューマンアカデミー心斎橋校で開催

全日本釣り団体協議会が西日本の釣り人を対象に募集し、南は九州福岡県や中国地方の広島県、東は愛知県や富山県・近畿地方などから応募された受講生併せて16名で、平成30年度の公認インストラクター講習会と試験を、農林水産庁漁業調整課釣り人専門官に講師として来阪いただき開催。私達JOFI大阪の会員も15日(土)11名、16日(日)9名が、講師・面接や受付などに協力。主催元的一般社団法人全日本釣り団体協議会専務理事で、JOFI大阪の副代表でもある綿井良隆氏から挨拶と「インストラクターの心得と釣り総論・指導要綱」の講義、続いて全釣り協副会長でJOFI大阪代表の来田仁成講師が「釣り総論と文化」の内容で、基本的な釣り具の生い立ちと、最近漁業関係の人達や波止近くで生活されている方から問題提起されている諸問題を、受講者との対話をしながら講義。休憩後「釣り具の知識」をJOFI大阪事務局長物部胤三講師から、釣りの六物を基本とした釣り具の歴史について、昼食休憩時間には、恒例となりました先輩釣りインストラクター達の協力で、実

技に出題されそうな課題について補習講習、受講者は熱心に鉤と糸で内掛け結び等を補習されていました。



午後の授業は、林水産庁漁業調整課釣

り人専門官の川上賢治氏から、釣り人が苦手としている「漁業法など遊漁に関する法令と漁業調整規則の知識」を2時間かけて説明、最後に受講者からの質問も多くあり時間一杯となり終了。「内水面の釣り」と題して、溪流や清流などの流水域での釣りや湖や管理池などの止水域での釣りを、和歌山県から講師として来てくれたJOFI大阪中央支部所属の東野英治フィッシングマスターが体験談、特に鮎の友釣りに関しては受講生を魅了。第一日目の最後の授業は、「釣りと言環境の問題」について、JOFI奈良代表窪悟氏の現在の水辺環境保護等をどの様に考え、釣りインストラクターとして何が必要かについて講義、一日目の講習会を終了。二日目の午前中は「海釣りの概論」と題して、JOFI大阪監査役の辻哲男フィッシングマスターが、波止釣りや船釣り、投げ釣りをどの様に初心者指導をしているのかを、プロジェクターを活用し自分の経験から習得した知識を分かり易く話していました。「気象・海象の危険回避と釣りに関連する諸問題」と題して、釣りに関する大雨の増水による危険性や溺れた人を助けるために、釣りインストラクターはどのように行動するのかを、来田仁成講師が講義。昼食後、一時間の筆記試験や論文試験を受け、最終の実技と面接試験も全員が無事に終了されました。(報告 事務局 物部)

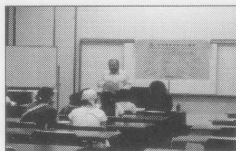


報告 9

平成30年度 かしわらフィッシングスクール(H30-5/26~10/7)

「魚を知ろう」「皆で楽しいマス釣り体験」

柏原市教育委員会の主催で「青少年つり入門講座」が開催され支援協力しました。前期15名と後期20名、35名の参加者があり、それぞれ3日間で「釣りの道具を知ろう」から始まり「波止釣り」はビデオを皆で鑑賞し「仕掛けやえさの基本」を学習。「ルアーとフライ釣り」で手作りルアーに挑戦。又「魚の種類」をミニ図鑑で特徴を学習、「ウキを作成」し「海や川・池・湖での釣り方」「ルール・マナー」を参加者全員で話し合いました。最後はキャストィグの実習を市役所横の河原で体験してもらいましたが、今年は台



風の接近も多くあり、暴風雨警報が発令され順延になったりし貴重な体験ができた講習会でした。実技講習会は10月7日(日)、今年も千早川マス釣り場で実施し、ファミリー参加者を含め45名で行いました。当日は、天候と釣果にも恵まれて大声が聞こえる楽しい一日を過ごしておられました。昼食は、持参された弁当とインストラクターが豚汁を作り参加者に食べていただきました。子供達が釣りに興味を持って、これからも釣りのルール・マナーを守り、釣りの文化を次の世代まで引き継いでくれることを願って講習会を終了しました。

(報告 中野)



大阪南港魚釣り園護岸の釣り初心者への支援

台風被害で休園状態

平成30年度も初心者釣り支援を、4月1日(日)から開始し5月の連休と夏休みに入り、多い日には350人以上のファミリーが来園され楽しませていました。私達インストラクターも、来園者と釣りの自慢話をしながら会話を楽しみました。



特に子供たちには積極的に話しかけ、釣りの怖さやライフジャケットが何故いるか危険な魚などを説明し、釣りを楽しんでもらっていましたが、大阪府全域に被害をもたらした台風20号と21号により、魚釣り園護岸も売店や釣り場の崩壊などがあり、現在も休園が続いています。

(報告 物部)



太刀魚研修会に参加して



11月17日(土)大阪府谷川港のいずみ丸さんにお世話になり、JOFI大阪ファミリー第2回タチウオ釣り研修会に参加しました。

当初雨の予報でしたが、雨が降ること無く後半はお天気に恵まれました。

大阪湾のタチウオは連日好調という事で期待をしていざ出船。洲本沖に到着しました。

釣り開始から皆さんに好調に当たりがありました。小型が多い中でも、メーター越えを釣る方もおられました。

私はタチウオテンヤにイワシをつけるシンプルな仕掛けでしたが、テンヤの上の同付き1本針にサンマを付けている方には、ダブルヒットもありました。誘い方は色々ありますが、この日は底から20メートル付近でよく当たりましたので、底からただ巻きやストップアンドゴーで誘いをかけました。早巻きの方が当たりがあるようでしたが、底付近でステイさせて大きいサイズを釣り上げる方もおられたので、棚や誘い方を試行錯誤しながら結局型の良かったサイズはフォールで釣れた104cmでした。残念ながらドラゴンにはお目にかかれなかったですが、自分なりに色々と考えながら釣るのも楽しみの1つです。JOFI大阪大阪の中で最大のサイズは115cmをつられた三木さんでした。おめでとうございます。一人平均25匹位と楽しい一日となりました。

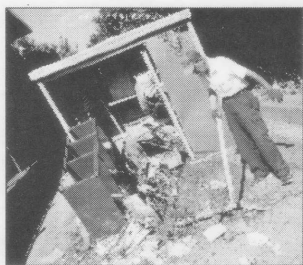
(報告 佐藤 和美)



台風20号(8月23日)と21号(9月4日)による大阪南港魚釣り園護岸被害状況

大阪府全域に被害をもたらした8月23日(木)の台風20号と最大瞬間風速58.1m/sの9月4日(火)21号により、魚釣り園護岸も売店や釣り場の崩壊などがあり休園となり現在も継続されています。

私達の基盤であった魚釣り園護岸に釣具等の備品を保管していましたが、大きな被害が発生し、ライフジャケットの流失や竿やリールなどは海水を被ってしまいました。26日(日)に協力できるインストラクターや一般支援者13名に集合してもらい、竿やリール、ライフジャケット等を壊れた倉庫から出し水道水で洗い流しましたが、平成26年度以前の会計帳票類や封筒



は全て廃棄しなくてははいけませんでした。

水洗いを行い乾燥させた釣り具備品は、各インストラクターに自宅で保管してもらうこととしましたが、これから開催される事業等に影響が最小限になるよう配慮し、保管してもらいました。

その後、9月4日の21号(火)により、売店等が壊滅的な打撃を受け休園を余儀なくされてしまいました。大阪市港湾局や大学などから被害状況をドローンを使用して調査をされたりしていました。しかし、私達の基盤となっていた場所が無くなり、備品の保管場所を探していますが良い保管場所



が無く、一部の会員にご迷惑をかけている状況が続いています。早く対処したいのですが・・・

(報告 事務局)

